



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月14日

上場会社名 日本コンクリート工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5269 URL https://www.ncic.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚本博
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 今井昭一 (TEL) 03-3452-1025
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	34,830	△2.2	1,062	△48.3	1,452	△41.1	1,190	△16.1
2021年3月期第3四半期	35,624	4.6	2,056	—	2,467	—	1,418	—

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 72百万円(△96.2%) 2021年3月期第3四半期 1,925百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	21.15	—
2021年3月期第3四半期	25.26	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	76,936	39,646	47.9
2021年3月期	74,825	39,384	50.2

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 36,864百万円 2021年3月期 37,539百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	2.50	—	6.50	9.00
2022年3月期	—	4.50	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	4.50	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,000	4.3	1,600	△41.7	1,800	△43.4	1,450	△22.5	25.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 1社(社名) 東北ポール株式会社、除外 1社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	57,777,432株	2021年3月期	57,777,432株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	1,547,689株	2021年3月期	1,359,228株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	56,266,992株	2021年3月期3Q	56,156,847株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報)	11
(収益認識関係)	12
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が進んだことなどから新規感染者も減少し経済活動は緩やかに回復しつつありましたが、一方で半導体不足等の部品調達の停滞や原材料価格の高騰等が見られました。また、足元の新型コロナウイルス変異株による感染再拡大への懸念等により、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境におきましては、当第3四半期累計期間のコンクリートパイル全国需要は前年同期比横ばいで推移しております。コンクリートポール全国出荷量も同じく前年同期比横ばいで推移しておりますが、携帯電話基地局向けのポール需要は前期に続き旺盛であります。また、次世代通信規格5G向け携帯電話基地局の増設や、防災・減災、国土強靱化、災害復旧等に資するコンクリート製品（当社独自の商品であるPC-壁体等）および法面補強工事の需要も引き続き高く、加えて当社開発のCO₂固定化およびその利活用（CCUS）の環境関連技術や低炭素型コンクリート製品への注目も高まっております。

このような環境のもと、当社グループは、私たちの経営理念である「コンクリートを通して、安心・安全で豊かな社会づくりに貢献する」のもと、昨年8月策定の「2021年中期経営計画」において、中長期の方向性を「未来の社会生活基盤と地球環境を護る」とし、基本方針を「グループ経営の推進による競争力強化と事業拡大で、国土強靱化と地球環境に貢献する」と定め、2023年度の計画値である売上高640億円、経常利益42億円等を目指し、計画に掲げた諸施策に鋭意取り組んでおります。また、昨年7月に東北ポール株式会社を子会社化し、グループ経営強化に取り組んでおります。

足下の事業全体につきましては、基礎事業では土木工事を中心に受注は回復傾向にあります。また、土木製品事業では法面補強工事を主力事業とするフリー工業が好調であり、リニア中央新幹線向けRCセグメントの生産を開始するなど工場稼働率は上昇しております。一方、ポール関連事業におきまして携帯電話基地局向けポール出荷は引き続き順調であります。半導体不足による鈍化が懸念されます。なお、損益の面では原材料価格上昇への対応を開始し利益確保に取り組んでおります。

当社グループの収益につきましては、当第3四半期連結累計期間の売上高は348億30百万円（前年同四半期比2.2%減）、営業利益は10億62百万円（前年同四半期比48.3%減）、経常利益は14億52百万円（前年同四半期比41.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は11億90百万円（前年同四半期比16.1%減）となりました。

なお、新型コロナウイルス感染症の当社グループへの影響は、現在のところ軽微に留まっております。

各セグメントにおける概況は次のとおりであります。

①基礎事業

コンクリートパイルの当第3四半期累計期間における需要は、全国的に前年同期比横ばいであります。当社グループにおいては、厳しい受注競争による大型物件の受注高が減少した上期から持ち直しているものの、売上高は143億30百万円（前年同四半期比19.1%減）となりました。

利益につきましては、売上高の減少に加えて工場稼働率の低下も影響し、セグメント利益は1億21百万円（前年同四半期比85.3%減）となりました。

当事業におきましては、大型案件など受注確保へ注力し工場稼働率の向上に取り組んでおり、一方で施工管理を強化しつつ、技術開発を進めることで競争力強化と更なる顧客満足度向上に努めております。また、当社従来品よりCO₂排出量を約40%削減可能な独自のG（グリーン）-ONAパイルの本年リリースを目指しており、環境負荷低減パイルの拡販に取り組む所存であります。

②コンクリート二次製品事業

当事業のうち、ポール関連事業につきましては、コンクリートポールの全国需要が横ばいである環境下、当社グループでは携帯電話基地局向けポール出荷が順調に推移しており、売上高は126億72百万円（前年同四半期比31.1%増）となりました。

土木製品事業につきましては、法面補強事業のフリー工業は好調でありましたが、RCセグメントの売上計上がズレ込んでいること、PC-壁体における着工遅延の影響等もあり、売上高は75億98百万円（前年同四半期比

5.2%減)となりました。

これらの結果、コンクリート二次製品事業の売上高は202億71百万円(前年同四半期比14.7%増)となりました。

利益につきましては、ポール出荷の増加に加えて好調なフリー工業も寄与したものの、PC一体等土木製品の売上が伸び悩んだことから、セグメント利益は21億59百万円(前年同四半期比9.0%減)となりました。

各事業における取り組みにつきましては、ポール関連事業では、当社独自の嵌合式コンクリート継柱(COP:キャップオンポール)の堅調な引き合いに対応しつつ、次世代通信規格5Gを見据えた携帯電話基地局向けポールの増設も視野に入れ拡販を進めるとともに、より一層の収益拡大を目指しポールメンテナンスやポール建設工事を含めた受注への取り組みを進めてまいります。

土木製品事業では、国土強靱化・防減災需要の高まりにより治水対策として工期短縮や省人化を実現するPC一体や法面補強対策工事の引き合いが旺盛であり、エリアの拡大を含めた営業体制の強化による積極的な受注獲得および設計折込みによる拡販に鋭意取り組んでおります。セグメント事業では、リニア中央新幹線向け生産を着実に進めつつ製造原価低減に努めるとともに、都市型地下調節池等大型案件の受注に取り組んでおります。

③不動産・太陽光発電事業

当事業の売上高は2億28百万円(前年同四半期比0.6%増)、セグメント利益は1億32百万円(前年同四半期比0.3%増)となりました。

その他、環境事業につきましては、中期経営計画に掲げた2023年度CO₂削減量年間約6千トン(当社グループ全体排出量の約30%に相当)に向け、先に述べたG(グリーン)ONAパイルに加え、環境商品の開発および販路拡大を目指し大手ゼネコンや独立行政法人との共同研究を進める等、取り組みを強力に推し進めております。また、循環型社会の構築へ貢献するポールリサイクルや都市インフラの再整備にも取り組んでおります。なお、ミャンマー事業につきましては、現地の政情等を注視しつつ適切に対処しております。

以上、足下の事業環境・経営状況を受け、各事業において積極的な受注の確保、売上の拡大に努めていく一方、事業環境の変化に対してスピードある対応をしつつ、引き続きコスト削減を推進し収益力の向上に注力してまいります。

なお、当社は昨年12月にESG投資・成長分野への投資の強化を目的とする2021年中期経営計画期間中(2021年度~2023年度)における政策保有株式の売却目標金額の設定について公表し、あわせて株主のみなさまへの利益還元を目的として政策保有株式の売却により得られる資金の一部を活用した自己株式の取得を公表しております。

当社グループは、今後も社会インフラ強靱化の一翼を担い、環境負荷を低減させる技術と商品群を提供することで社会貢献するとともに、当社グループのシナジーを發揮し、持続的成長による企業価値向上に引き続き取り組んでまいり所存であります。

(注) 売上高、その他の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループは、売掛債権回収の早期化・製品在庫の適正化・効率的な設備投資戦略等により、総資産の圧縮を図り、ROAの向上を目指すこと及び、グループにおける資金・資産の効率化を図り、有利子負債を圧縮することを財務方針としております。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比(以下「前期末比」といいます。)21億11百万円増の769億36百万円となりました。

流動資産は前期末比13億46百万円増の332億11百万円、固定資産は前期末比7億65百万円増の437億25百万円となりました。

流動資産増加の主な要因は、受取手形、売掛金及び契約資産の増加によるものであり、固定資産増加の主な要因は、有形固定資産の増加によるものであります。

負債合計は、前期末比18億49百万円増の372億90百万円となりました。

流動負債は前期末比30億4百万円増の278億2百万円、固定負債は前期末比11億55百万円減の94億87百万円となりました。

流動負債増加の主な要因は、短期借入金の増加によるものであり、固定負債減少の主な要因は、長期借入金の減少によるものであります。

純資産合計は、前期末比2億62百万円増の396億46百万円となりました。

主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の50.2%から47.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の連結業績予想につきましては、2021年11月12日に発表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,804,311	7,473,508
受取手形及び売掛金	11,965,519	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	12,337,293
電子記録債権	2,521,131	1,799,041
有価証券	—	1,000,000
商品及び製品	4,608,488	6,693,050
仕掛品	387,742	463,043
原材料及び貯蔵品	1,367,942	1,789,682
未成工事支出金	1,222,707	260,038
その他	1,023,371	1,425,914
貸倒引当金	△36,522	△30,467
流動資産合計	31,864,693	33,211,104
固定資産		
有形固定資産		
土地	16,453,797	17,236,806
その他(純額)	9,114,099	10,163,496
有形固定資産合計	25,567,897	27,400,303
無形固定資産	399,997	440,177
投資その他の資産		
投資有価証券	13,781,673	12,480,897
その他	3,452,086	3,636,864
貸倒引当金	△241,129	△232,549
投資その他の資産合計	16,992,630	15,885,212
固定資産合計	42,960,524	43,725,693
資産合計	74,825,217	76,936,798

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,939,989	6,196,689
電子記録債務	6,824,886	7,722,095
短期借入金	4,050,000	7,000,024
1年内返済予定の長期借入金	3,408,008	3,000,738
未払法人税等	936,707	134,795
引当金	610,661	402,307
その他	4,027,869	3,346,020
流動負債合計	24,798,122	27,802,670
固定負債		
社債	4,500	1,000
長期借入金	3,577,548	2,235,873
退職給付に係る負債	688,257	1,204,693
その他	6,372,725	6,046,123
固定負債合計	10,643,031	9,487,690
負債合計	35,441,153	37,290,361
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,111,583	5,111,583
資本剰余金	3,850,779	3,894,568
利益剰余金	18,900,629	19,494,163
自己株式	△443,433	△533,165
株主資本合計	27,419,559	27,967,150
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,628,464	3,660,199
土地再評価差額金	5,312,368	5,312,368
為替換算調整勘定	△42,293	△234,480
退職給付に係る調整累計額	221,127	159,047
その他の包括利益累計額合計	10,119,665	8,897,135
非支配株主持分	1,844,839	2,782,150
純資産合計	39,384,064	39,646,436
負債純資産合計	74,825,217	76,936,798

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	35,624,362	34,830,087
売上原価	29,331,480	28,876,895
売上総利益	6,292,881	5,953,192
販売費及び一般管理費	4,236,165	4,890,355
営業利益	2,056,716	1,062,837
営業外収益		
受取利息	9,274	6,730
受取配当金	193,074	198,816
持分法による投資利益	218,735	175,869
その他	91,677	127,480
営業外収益合計	512,761	508,897
営業外費用		
支払利息	38,944	40,174
工場休止費用	—	26,150
その他	63,280	52,789
営業外費用合計	102,225	119,114
経常利益	2,467,253	1,452,620
特別利益		
固定資産売却益	2,167	299
投資有価証券売却益	—	164,036
段階取得に係る差益	—	433,716
特別利益合計	2,167	598,052
特別損失		
固定資産除却損	16,851	4,800
生産拠点再構築費用	54,912	—
減損損失	—	26,741
特別損失合計	71,763	31,541
税金等調整前四半期純利益	2,397,657	2,019,132
法人税、住民税及び事業税	680,703	465,423
法人税等調整額	144,659	228,289
法人税等合計	825,362	693,713
四半期純利益	1,572,294	1,325,419
非支配株主に帰属する四半期純利益	154,006	135,259
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,418,288	1,190,159

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	1,572,294	1,325,419
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	379,748	△971,151
為替換算調整勘定	△6,164	△220,054
退職給付に係る調整額	△43,683	△62,079
持分法適用会社に対する持分相当額	23,218	170
その他の包括利益合計	353,119	△1,253,114
四半期包括利益	1,925,414	72,304
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,770,731	△32,370
非支配株主に係る四半期包括利益	154,682	104,675

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月12日 取締役会	普通株式	141,646	2.50	2020年9月30日	2020年12月1日	利益剰余金

(注) 2020年11月12日の取締役会の決議に基づく配当金の総額には「役員報酬B I P (信託口)」に対する配当金141千円及び「株式給付型E S O P (信託口)」に対する配当金159千円を含んでおります。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月4日 取締役会	普通株式	368,280	6.50	2021年3月31日	2021年6月15日	利益剰余金
2021年11月12日 取締役会	普通株式	254,963	4.50	2021年9月30日	2021年12月1日	利益剰余金

(注) 2021年11月12日の取締役会の決議に基づく配当金の総額には「役員報酬B I P (信託口)」に対する配当金627千円及び「株式給付型E S O P (信託口)」に対する配当金496千円を含んでおります。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これに伴い、工事契約について、従来は、当四半期連結会計期間末までの工事進捗部分について成果の確実性が認められる場合には工事進行基準により収益を認識しておりましたが、財またはサービスに対する支配が顧客に一定の期間にわたり移転する場合には、財またはサービスを顧客に移転する履行義務を充足するにつれ

て、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。この履行義務の充足に係る進捗度は、見積工事原価総額に対し当四半期連結会計期間末までに発生した実際工事原価の割合で測定しております。また、当四半期連結会計期間末で履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができないものの、当該履行義務を充足する際に発生する工事原価を回収することが見込まれる場合には、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができる時まで、原価回収基準に基づき収益を認識しております。なお、取引開始から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い場合には、代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は368,867千円減少し、売上原価は357,061千円減少し、営業利益が11,805千円減少、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ11,805千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は25,294千円増加しております。

収益認識会計基準等の適用に伴い、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間から「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

東北ポール株式会社の株式を2021年7月30日に取得し子会社化したことにより、第2四半期連結会計期間から連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

(1)取引の概要

当社は、2021年8月11日開催の取締役会において、当社の中長期的な業績の向上達成意欲と株主価値の増大への貢献意識を高めることを目的として、2015年8月より導入しております「役員報酬B I P信託」（以下「B I P信託」という。）及び「株式付与E S O P信託」（以下「E S O P信託」という。）に対して、新たな対象期間を3事業年度（2022年3月31日で終了する事業年度から2024年3月31日で終了する事業年度まで）とするB I P信託及びE S O P信託の継続を決議し、期間延長の契約締結により再導入しております。

(2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当第3四半期連結会計期間の当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、B I P信託が44,617千円、139,497株、E S O P信託が35,940千円、110,310株であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	基礎事業	コンクリート 二次製品事業	不動産・太陽 光発電事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	17,718,038	17,679,343	226,979	35,624,362	—	35,624,362
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,232	—	—	8,232	△8,232	—
計	17,726,271	17,679,343	226,979	35,632,594	△8,232	35,624,362
セグメント利益	825,995	2,374,214	132,498	3,332,708	△1,275,991	2,056,716

(注) 1. セグメント利益の調整額は、主に全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	基礎事業	コンクリート 二次製品事業	不動産・太陽 光発電事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,330,611	20,271,102	228,373	34,830,087	—	34,830,087
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,481	—	—	5,481	△5,481	—
計	14,336,093	20,271,102	228,373	34,835,569	△5,481	34,830,087
セグメント利益	121,183	2,159,689	132,927	2,413,799	△1,350,962	1,062,837

(注1) 調整額は、以下の通りであります。

1. セグメント利益の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「基礎事業」セグメントにおいて、売却予定資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において26,741千円であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

(単位:千円)

	基礎事業	二次製品事業	不動産・太陽光発電事業	合計
製品売上	2,153,087	18,216,405	—	20,369,492
工事契約売上	12,152,143	2,044,897	—	14,197,040
その他売上	10,070	9,798	57,705	77,574
顧客との契約から生じる収益	14,315,300	20,271,102	57,705	34,644,107
その他の収益(注)	15,311	—	170,668	185,980
外部顧客への売上高	14,330,611	20,271,102	228,373	34,830,087

(注) 「その他の収益」は、不動産賃貸収入等であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。